

(有)小川原自動車钣金

3世代続く想いを胸に

「地域から必要とされ続ける、暮らしの

「文化」を創造する企業をめざして」

有限会社小川原自動車钣金 代表取締役

小川原 一成氏
小川原 航氏



3世代続く想いを胸に

「地域から必要とされ続ける、暮らしの『文化』を創造する企業をめざして」

(有)小川原自動車钣金

代表取締役

小川原 一成氏
小川原 航氏



(有)小川原自動車钣金の2代目として企業を牽引してこられた小川原社長、そして3年前に3代目後継者として入社されたご子息の小川原航氏に揃ってインタビューに答えて

戴きました。特集でご紹介します。

まず小川原社長にお聞きします。12年前に岩手同友会の当時間催されていた、経営指針を創る会を受講されました。

私が2代目として戻った時、社長である父親は現役の職人でした。何も知らない世界でしたが、当時はやって当然。出来て当然の時代でした。取りあえず基礎的な知識を吸収するため父親の背中を見ながら社員より早く、うまくできることを考えていました。そして、私が社長を継いだのが2006年、今から14年前でした。

圧倒的にトップダウンの父親がいて、社長とはそういうものかと思いき、事業継承しました。当時は「これだけやっているから社員もやるのは当たり前前。」「自分の会社。」と思いつながら、自分自身が目標を持っていました。「このままでは、やりがいもなく毎日の忙しさで終わってしまふ。会社の到達点や目標になるものが欲しい」と考えるようになりました。

他の会にも属していましたが、背骨になる部分が欲しくて、当時から同友会の会員だった(株)五日市塗装工業の晴山社長(現取締役会長)に相談したところ、「ぜひ入会して経営指針をつくるべき」と言われ、真剣に経営のことを勉強しようと思いい入会し、同時に経営指針を創る会が始まる時期だと知り、「自分もとめていたことはここだ」と迷うこともなく申し込みました。これが同友会に入って最初に参加した行事でした。

はい。参加してすぐ、「社員との関わりはどうしているのか。」と突然聞かれました。「社員を自分のものと思っていませんか」と言われたことがあります。当時は社員の意図は全く無視。「俺の言うことを聞け。」社員を大切に思っていました。そう言われても仕方がないことをやっていたことに気づきました。

側で見ている、一生懸命社員に思いを伝えようとしている姿が、社員にも伝わっているのがよくわかります。何よりも社長が今、何を言おうとしているのか分かるようになってきました。これは、時間をかけて関わり続け、自分の血肉にしてきたことの結果なのだと感じています。社長が変化したことで、社員も自分の生き方を考えるようになったのだと、社長の姿から感じます。

航さんは初めから小川原自動車钣金に入社を決めていたのですか。

いいえ。実は学生時代は京都にいて、その後のことは全く考えていませんでした。そんなときに社長から盛岡の酒造会社で頑張ってみないか、と声をかけてもらい、迷わず入社しました。

営業職として仕事に就きましたが、半年後経営者が変わり、社内の体制も一変しまし

初めて参加したのが経営指針を創る会だったのですね。

た。社長からは「自分が本当に必要とされている、と実感するまで頑張れ」と言われていたので、どんなことがあっても踏ん張ろうと思いつけました。

それでも、営業として酒屋や飲食店、問屋にいかに値段を安くして受け入れてもらうか。それだけを考えて仕事をしていたため、自分自身が次第に辛くなってきました。本当に自分がやりたいのは何なのか。杜氏さんが泊まり込みで苦勞しながらお酒を作っているのを知っているし、蔵出しのお酒を飲ませてもらい、クオリティーの高いお酒を造っているとも思いました。

悩んだあげく、自分が伝えたいのは値段ではなく「造り手の想いを伝える代弁者になること」だと、気づきました。しかし、酒屋や問屋からは値段でしか見てもらえません。葛藤がありながらも頑張るしかありません。自分のことは見えていませんでしたが、一生懸命やることだけを考えて仕事をしていました。

それでも頑張れたのは、杜

氏や上司の皆さん、先輩方が酒造りの本質を私に伝え続けてくれたからだと思います。

入社から4年が経ち、本州から離れた地域担当の話が出た時点で、約束した「本当に必要とされる人間に」少しは近づけたのでは、と思いい、父親に相談したところ、小川原自動車販売に入ったらどうかと言っていたとき、決断しました。

全く初めての業界でしたね。

車に興味があった訳ではありませんでしたが、働いている社員の姿を見た時、「この人たちは、神の手を持っている」と本気で思いました。事故でぐちゃぐちゃになって、車の形がなくなったものを、元通りに修理してしまうんです。心から『すごい!!この技術をもっと伝えたい。そして発信したい!』と思いました。入社し3年が経過しますが、現場に入って実際に教えてもらいながら、一つひとつ技術を習得していきました。

社長は初代社長に、社員よりも高い技術を持っていない

てはいけない、と教えられたそうです。でも私は何も知らないし、先輩社員の「神の手」を心から尊敬していましたので、ぜんぶ教えて貰いながら、学ばせて貰おうという思いだけでした。それが今の会社の雰囲気にも繋がっているのだと思います。

2年前、社長と同じく経営指針づくりを学びに飛び込みましたね。

2019年、岩手同友会の第14期人を生かす経営・経営指針実践塾を半年間受講しました。

受講するのは、まだ先のことだと思っていました。背中を押してくれたのが、前青年部長であられた、杜陵テクノ(株)の川村社長でした。

受講しての一番の壁は、まず社長と話すことでした。いつも普通に話しているつもりでしたが会社のことや今後をどう考えてやっているのか。いざ聞こうと思うと構えてしまつて、話すことができませんでした。

でも社長は、それをわかっていて、どんなことでも聞けば必ず答えてくれる、自分からは何も問わないという姿勢で向き合ってくれました。そしていつの間にか、あらたまつて話しをしなくても日常会話から、お互いが何を伝えようとしているのか分り合えるようになってきました。

今まで社長がやりたくてもできなかったこと。それは「社員自らが自分の想いをフルに発揮できる会社になること。その仕組みを作り上げること」でした。その想いを私が引き継ぎ、実現していく。社長とはお互いの強み、弱みを補い合い、認め合い、高め合う関係が出来ています。

最後にお二人の夢を教えてください。まず小川原社長からどうぞ。

私は、これから先の未来はひよつとしたら車を扱う会社



という枠組みからより先を見据えて進化しながら、地域になくてはならない、暮らしの文化を創造する企業、地域に貢献できる会社になっていかねばならないと思っています。航さんはいかがですか。

想いは社長と全く同じです。社員一人ひとりの生き方に寄り添える会社になれるよう、社員と共に成長していきたいと思っています。

支部・委員会通信

県南支部

オンラインで二元中継

9月29日、なのはなプラザで県南支部例会・情報交換会が開催されました。当日は盛岡からもオンライン中継で事務局二人も参加し、半年ぶりの再開に会場からも声が上がりました。



鈴木支部長のあいさつ後、早速始まった各社の現状報告では、それぞれから率直な現状が語られました。「新車が全く出なくなつた。中古市場も感染症の影響で停滞気味。自動車関連の再編も一気に進むかもしれない。」「高校生の免許取得への意欲が昨年とは違い、非常に高い。これも地元志向、地域志向の表れでは。」

「最近補助金の申請に関してDMや電話広告が多い。取り組むかどうかは慎重に判断した方が。」「コロナショックでこれまでなかなか入れなかった医療分野への挑戦が叶い、道が開けてきた。これもこれまで積み重ねてきた地域を越えた企業連携ができたからこそ実現できたこと。」など、新聞報道やニュースでは流れない話題に、参加された皆さんは前のめりになって互いの話を聞き合っていました。当初予定していた時間は大幅に超過し、最後まで名残

惜しそうに話されているのが印象的でした。

今後オンラインやSNSなども利用して、互いの情報交換は密にしていこう。できるだけ声をかけ合うことを互いに確認し終了しました。

紫波花巻支部

10月7日(水)紫波花巻支部10月例会がやはばく大研修室で開催されました。報告者は(株)エムデイワンま

ごころみるく代表取締役下村善勝氏より「まごころでお客様スマイルに社員と共に歩んできたこと」脳を元気に、体も心も健康になれる例会をテーマにご報告いただきました。最初に下村氏から脳が元気になり活性化するためのウォーミングアップからスタート。会場参加者もZoom参加者も下村氏のリードによって和やかな雰囲気での報告が始まりました。

顔の見える関わりに魅了され

下村氏は、兵庫県明石市の

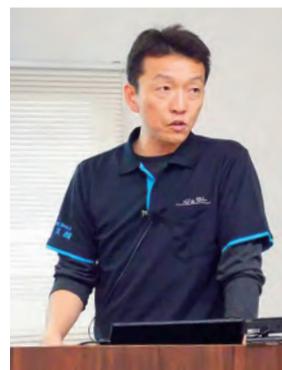
出身、前職は大手のゼネコン建設会社で仕事をしていましたが、妻の実家が秋田県で牛乳販売店を経営していたこともあり、秋田県で仕事をする事になります。宅配の仕事は都市圏では体験できなかった顔の見えるお客様との関わり、「ありがとう」と感謝されることに魅了され本格的に牛乳宅配業に専念しました。

将来の不安と悩みを抱え同友会へ飛び込む

経営は順調に進んではきたものの、反面、社員やパートが辞めていく、何故なんだろうと将来に不安を抱え悩んでいました。そんな時同友会の例会にゲスト参加し、報告者の女性経営者の話を聞き「こんな会社ってあるんだ！凄い、自分もあんな会社になりたい！」と強く感銘を受け同友会に入会します。そして同時に第13期経営指針を創る会に参加しました。

地域の希望と未来へつながる会社づくり

創る会の中で「何のために



経営するのか？」を徹底的に掘り下げて考えました。「本当に寝てもさめても、そればかりを考えていました。」と下村氏は当時を振り返ります。そして、楽しく仕事をするためには原点に戻る事、すなわち自分自身が一番変わる事に気が付きました。そこから社員の一人ひとりの話を聞きながら、課題を確認し皆で共有し、一緒に解決していく仕組みを作りました。すると社員達は自主的に自分達の会社は自分達で作るんだと行動が変わっていきました。宅配業は地域あつての業。地域の希望となり、未来へ繋がる地域づくりに貢献しながら地域になくしてはならない企業として存在し続けるよう今後も邁進していきたいと報告されました。

ダイバーシティ委員会

10月12日(月)ダイバーシティ委員会では企業訪問委員会が開催されました。訪問企業は一関市川崎町の一般社団法人やさいサラダを訪問しました。やさいサラダはJR一関駅から気仙沼街道を車で約20分。山合いの道を抜けると北上大橋と雄大な北上川が見える自然豊かな地域にあります。

輝く笑顔 輝く個性

最初に管理者補佐の葛西浩之氏から施設外就労をしている(有)かさい農産の事務所でお



話を伺いました。平成26年に障害者就労支援A型として「輝く笑顔 輝く個性」を経営理念に掲げ、個性を認め合い、個性を発揮し、みんなの個性と笑顔がキラリと輝くような事業所づくりをめざし代表理事兼(有)かさい農産取締役会長の葛西信昭氏が立ち上げました。現在は責任者、サ

ビス管理者、職業指導員、生活支援員、調理員の方々15名、利用者は20名の方々が農作業、野菜の生産、袋詰めやラベル貼り作業をしており、主に生協中心に出荷をしています。また今年から、農作業だけでなく、一関市内の産業廃棄物処理の企業で電子部品の分解作業などの仕事の依頼があり現在6名の利用者が仕事をすると、新しい取組もしています。葛西氏は「人によっては農作業をするよりも、その人の適性を考えれば逆に分解業の方が向いている人もいます。そして何よりも楽しく意欲をもって働いていることから、今後も継続していく新しい事業にしていきたい。」と話されました。

一人の人間として一緒に共に生きあう社会を

その後、実際に作業しているハウスに移動し、次期のチングンサイを作るためのハウスの整備を3、4人がチームになり指導員を中心に作業しているところを見学しました。中には新しく働き始めた方や支援学校の実習生もいるチームでしたが、皆さん手際よく協力しながら一生懸命作業をしている様子を見ることができました。その後、この10月から共同生活援助の「グループホームやさいサラダ」がスタートするという事で実際に新築されたホームを見学しました。このホームの入居人数は5名の定員で、障害を持った方が一緒に日常生活を送ります。自分でできる範囲は人によってそれぞれ違いますが、困難な場面があればサポートし合いながらコミュニケーションを取り楽しく自立した生活を送ってほしいという方を応援するための施設です。新築された施設は大変明るく、特に皆が集うダイニン

グは暖かく本当に家族と暮らすようなアットホームな雰囲気。気が漂う場所になっています。

実際に見学してみる良さを実感

今回の企業訪問に参加された方々から「障がいがあってもなくても一人の人間として一緒に共に生きあう思いの強さを感じました。聞いただけではイメージがつかみませんが、実際訪問して利用者の方々が活き活きと仕事をしている様子を見学することでより深く知ることができました。」などの感想がありました。

30周年誌編纂プロジェクトが始動

岩手同友会は来年2021年11月2日に、創立30周年を迎えます。そこで、これまでの30年の歩みを振り返り、活動の経緯とその変遷について見える形で記録を残すことで、新たな同友会運動のバトンを次世代につないでいくことを目的に、30周年誌を発行することになりました。

10月9日(金)岩手同友会会議室で「第1回 岩手同友会30周年誌編纂プロジェクト」が開かれました。当日は9名の編纂プロジェクトメンバーが集い、顔合わせと今後の方針について話し合われました。

メンバーからは、設立当時のことや岩手で初めて開催した全国総会や青年経営者交流会交、そして東日本震災での岩手同友会の復興へ向けた「一社もつぶさない、つぶさせない」を掲げ続けた活動など、様々な想いが出されました。

そして記念誌の内容について、「岐路に立ったときに見返すことができるようなもの」「歴史の歩みを確認できるもの」「これから岩手同友会が40、50年と引き継いでいけるような内容に」など記念誌への期待が一人ひとりから出され、検討されました。

次回以降「資料収集整理」「本誌編集」「広告・広報」の3チームに分かれ進めていくことが決まり、来年の発行へ向け本格的に動き出しました。

中堅幹部・幹部社員研修会スタート！

「どんな環境でも、社員が学び続けられる場を」

岩手同友会では、新入社員、中堅社員、幹部社員のそれぞれの立ち位置に合わせた研修会を年間を通じて開催しています。コロナ禍の中で今年の開催はオンラインでの開催を決定し、様々な知恵と工夫を凝らしながら、これまでにはない学び合いが行われていました。

「自分の生き方」に向き合う

すべてオンラインでの新入社員研修、中堅社員研修に続



き、10月21日から幹部社員共育講座がスタートし、幹部社員、経営者あわせて20名の参加で第1回目が行われました。

今年4月から始まった挑戦はまず、新入社員40人の講座からでした。8名ずつにチームを組んで一日7時間、同じ講座を5日間開催します。それを3単元。合計100時間を超える研修会です。最初はそんなことがこのコロナ禍の中で本当にできるものか、そのカリキュラムも、社員との関わり方も全くの暗中模索の中からのスタートでした。そして最も大切に行っている「共に学び、共に育つ」学び合いの根幹を貫けるのか。その一点で実行委員会では議論を深めることから始めました。

地域に根ざす企業で働く誇り

18歳の新入社員にとって、大震災は8歳の頃の記憶です。しかも内陸に住んでい

た社員にとっては、テレビの映像で見た体験しかありません。

(株)高田自動車学校の田村満会長は、当時を振り返って語りはじめます。「中小企業ってどれくらいあるか知ってる？実は県内の事業所の99.8%が中小企業。東日本大震災が起きたとき、その同じ全国の中小企業が様々な物資を新潟経由で送ってくれて、発災からたった6日後から毎日陸前高田に一ヶ月以上も届け続けてくれた。それを陸前高田の200カ所の避難所一つ一つに、私たち地元企業の社員全員で届けていたんだよ。」写真を見た社員の表情が変わります。中小企業の地域での役割と責任。わざわざ説明しなくても、当時の写真と田村氏の話から、心に響いていくのがわかります。

例年と違う大きな変化があったのはここからでした。「最初は出たくなかったけれ

ど、もの凄く面白い。」「実は話したいことが沢山ある。」どの世代の社員からも、働く誇りと自信が伝わってきました。

「人間らしく生きる」を真っ正面に据えて

グループ討論のテーマは「人間らしく生きる」とは。一見難しく感じるテーマですが、社員は率直に語りはじめます。「自分のことばかりしか見ていなかったかもしれない。思いやりを持って生きることを自分のモットーにしてきたはずなのに」と若い男性社員の悩む姿を見て、すかさず女性社員が「そこに自分が気づいただけでも、すでに解決したってことだよ。凄いな」。さらにもう一人の女性社員が「客観的に自分を見ることができたってことだね」。

これがオンラインでの会話であることに、驚かされます。「命の重さは新入社員でも、幹部でも経営者でも全く変わらない。それなのに、経営者自身が心底社員を同じ立ち位置で見えていないのではない

か。いかに社員一人ひとりと向き合えるか。一番この研修で学んでいるのは社長では。」「どんな環境にあっても、学ぶ機会は作り続けなければ。社長には本当に大きな責任がある」社員と一緒に参加し、心配してみていた社長のほうにボールが飛んできたことにはっとします。

学び合いの場を保証し続ける

オンライン社員研修という新たな挑戦から生まれた、新たな学び合いの場。今回の幹部研修会で見えたのは、自分たちの企業に誇りを持って生き合う、各社の日常の姿そのものでした。

「変化に対し常に考える」田村氏の問題提起に、「どんな環境の変化にも経営を維持し発展させる責任がある。そして同時に社員が学ぶ場所を保証し続けることでは。」あらためて経営者の役割を考えた、幹部社員研修会のスタートとなりました。次回以降、情勢認識、持続可能な地域と企業、と更に学び合いが続きます。

第48回青年経営者全国交流会

ONLINE

「志高く集いし仲間と未来に挑む」

9月17、18日、オンラインで第48回青年経営者全国交流会が「志高く集いし仲間と未来に挑む」青年部50年の歴史を紡ぎ、今こそ同友会運動と企業経営は不離一体の実践



2日目のパネルディスカッション 中同協青年部歴代代表の皆さん

を」をスローガンに約1500名が参加しました。今年度の開催は愛知開催で進めていきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため全面オンライン開催で、青年部連絡会の設営で準備されました。一日目はそれぞれのテーマで14分科会に分かれZOOMで行われました。二日目は「2030ビジョン」につなぐ企業づくりと青年部活動「われわれ青年部活動で世界に誇れる日本の未来を創ろう」をテーマに中同協青年部連絡会の歴代代表がパネリストとなりパネルディスカッションが行われYouTube配信されました。岩手同友会からも15名が参加され熱心に参加し学んだ2日間となりました。今回参加された方から3名の方からの感想をご紹介します。



(株)東北ウエノ
経営企画室長
鈴木 達也氏

青全交に参加し、全体を通してとても熱いものを受け取る事ができました。

第8分科会『神棚に想いを込める』で杉本社長の話を聞く中で、実際に自社事業を見つめ神棚に特化するという話を聴き、理念経営・共に働く仲間との共有・そして、自社事業の理解を深めることが大事だと言う学びを得ることが出来ました。

また、G討論では今回のコロナ禍で様々な悩みや、活動を共有することが出来、共に邁進すると、共に社外の仲間とも協力しながら活動することが大事だと改めて感じました。全体会でも青年部の成り立ち・想い・そして使命を感じることが出来、とても学びの多い二日間でした。

今回、ONLINEと言うチャレンジングな開催でしたが、運営もとても参考になりました。参加させてもらったコトに感謝しながら、自身を

成長させ会社に還元していきたいと思えます。



(有)昆石材店
昆 卓広氏

初のオンライン開催となった青全交。私自身、青全交への参加は初であり、各地の青年経営者のお話を聞けることを楽しみにしていました。

私が参加した第8分科会では「本質を捉え変化に対応する」をテーマに静岡同友会の(有)静岡木工・杉本かつ行さんが発表しました。同友会での学びを通して木製品全般を扱っていた自社事業を見直し、扱っていた商品でもあった神棚の専門店へと方針転換。社員全員で専門店として求められる知識を深め、神棚を通して得られる生活の豊かさをお客様へ提供しています。

これを自社に置き換えて、改めて墓石そのものと、仏事などの墓石に関係する知識を深め、お客様へ墓石を通して何を得られるのかを伝えていかなくはと感じました。



(有)小川原
自動車販売
小川原 航氏

今回オートモビルジャパン(株)代表取締役 西山氏の第5分科会に参加いたしました。

「地域にあてにされ続ける企業へ」というテーマでした。後継者として入社後孤軍奮闘、父や社員と衝突。同友会に入会后、全人格的成長の必要性を感じ自己変革に奮闘し今では社員もそれにこたえて一丸となっている現状を時系列に沿って赤裸々にお話下さいました。

「世のため人の為に仕事を！その報酬は自然に入るものなり」これは西山氏の父(先代)がよく言っていた言葉だったのですが、同友会で学び、「共育ち」の実践。時を経て西山氏が自分で生み出した思いと父の思いが合致したという話の部分は鳥肌が立ちました。業種も似ていることから共感する部分が大いにあり、自社の課題解決のヒントも多くいただけました。

「エネルギーシフトの特長は、気づいたとき、今日からでも誰でもスタートできること」

前野モーターズ 代表 前野 嗣郎氏

新車のネジ一つ、パーツ一つまですべて分解

真冬には氷点下20度以上になる岩手県葛巻町で車両整備工場を営む前野モーターズ代表、前野嗣郎氏は、2015

年11月、岩手同友会の第2回エネルギーシフト欧州視察に参加しました。

帰国直後、早速取り組んだのは、一歳ごとの町の人口動態データの作成と地域の車両購入、整備状況とそのお客様との年代性別データの把握でした。葛巻町は高齢化が進む人口約6千人の山あいの町です。酪農が盛んで、牛の数は人口より多い約一万頭にもなります。

町の中心部までは最寄りの鉄道駅から車で30分ほどの道

のりですが、冬場は路面の凍結が酷く、毎日のように凍結防止剤を大量に散布するため、自動車の下部がすぐ錆びてしまい、マフラーが3年前後で壊れ、整備工場に駆け込むのが日常でした。

欧州視察でエネルギーと資源の域内循環実現のために、地域の中小企業の取り組みが鍵であることを、その目で見てきた前野氏。これまで

の故障したら駆けつける整備の考えを根本から変えて、「壊れない車」を提案する整備業に考え方を大転換しました。

新車を購入するご高齢の方にとつては、自分が最後まで乗りたい特別の想いのある車

一つ、パーツ一つまで分解し丁寧に防錆塗装をし再び組み

立て、お客様に引き渡しをするサービスを始めました。防錆塗料は非常に粘性が高いため完全に乾燥するまで日数を要しますが、評判を聞いたお客様が店の50キロ圏内からも駆けつけるようになりました。

まず「止める」「下げる」「やめる」と

先代社長が建てた工場は既に40年が経過、断熱改修をするにも、熱はただ漏れ状態です。どこから手を付けて良いかわからない程でした。そこで国家資格を持つ省エネルギー診断士に依頼し、どこから熱エ

ネルギーが漏れているのか、燃料やエネルギーの効率の良い工場のあり方について、徹底して調査をして貰い、その

使用量から金額まですべて見

える化し、詳細な改善計画書を作成しました。

経営指針と省エネルギー改善計画書は、金融機関にとつても融資の上で大きな評価の後盾となりました。また、話を聞きつけた町の職員からは、町独自の工場で使える設備補助の提案がされるまでになりました。

そして改善提案のあった部分に、工夫加えながら省エネ設備を導入していききました。いくつかの例をご紹介します。

冬場、氷や融雪剤で真っ白なお車の下廻りを洗浄するために、温水ボイラーに灯油を入れどんどん焚いていましたが、エコキュート(ヒートポンプ給湯器)に変更し、深夜電力で高圧スチーム洗浄用のお湯を作ります。それを農業用タンクに貯め、加圧ポンプで洗車機に入れ使用したり、吐出ノズルを0.1ミリ単位で調整し、勢いよく水を噴出させることで、硬い氷を粉々にしたりと、「節水」もしながら洗浄しています。

また敷地内のLPガスをなくし、事務所でも電気式の温

水給湯器に変更。大型トレーラーのタイヤ交換等で使用する「高圧圧縮空気」を作るコンプレッサも、電気を使わずに倍圧(500~1000kPa)するエアータンクを導入することで、低電圧(200V)の電気代を半減させました。

こうして不必要な時に「止める」、「下げる」、「やめる」改善で、化石燃料にほとんど頼らない工場を実現しました。こうした改善の実現には、

岩手同友会のエネルギーシフト研究会の仲間である信幸プロテック(株)のベテラン社員との研究成果が大きく影響しました。企業間連携によるエネルギーシフト(ヴェンデ)の具現化が岩手ではどんどん生まれています。

私たちがこの6年続けてきた実践の順番は、1. 省エネ、2. 小エネ、3. 創エネ、4. 商エネ。誰でも、どの企業でも省く、小さくする工夫は必ず見つかります。エネルギーシフトの特長は、気づいたとき、今日からでも、誰でも取り組みをスタートできることです。

ドイツからの風



池田憲昭氏

プロフィール
1972年長崎県生まれ
岩手大学人文社会科学部(ドイツ文化専攻)卒業、フライブルク大学森林環境学ディプロム課程(修士相当)卒業
フライブルク地域を拠点に、ドイツ環境視察セミナーのオーガナイザー、異文化マネージメントのトレーナー、企業サポーター、日独プロジェクトのコーディネーター、専門通訳、ジャーナリストとして活躍されています。2011年9月Arch Joint Vision社を設立 現代表。

誰も欲しがらない「人」と「建物」に新しい生命を！

文化財のため改修費用が嵩むので誰も手をつけようとならない廃屋。誰も好んで雇ったらずいませたりしたくない社会の片隅に追いやられた前科者や浮浪者たち。誰も欲しがらない「建物」に新しい生命と機能を、誰も欲しがらない「人」に職を、住まいを、将来の展望を、人間としての尊厳を与えてきたシュヴァルトヴァルトの小さな建設会社 Domizier (ドミツィール)。ドミツィール社は、30年以上、シュヴァルトヴァルト地域で古建築の改修を手がけるヴィリー・スッター氏によって90年代末に設立されました。

スッター氏は、1980年代初頭にギムナージウム(高校)を出たあと、工務店や住宅設備工事の会社で数年経験を積み、独立して古建築の改修を開始した。80年代当時、彼の生まれ故郷のシュヴァルトヴァルトのティティゼー・ノイシュタット市では、住宅ブームで、たくさん古い建物が壊されて、新築の家が建てられていました。彼にとっては、趣と雰囲気がある古い建物が解体されていくのは、自分が慣れ親しんだ故郷がどんどん奪われるような気持ちでした。それに少しでも歯止めをかけようと、農家の古い納屋や空き家になっている古建築を見つけては、所有者と交渉し、買取り、改修する事業を始めました。出来上がったものは、転売するか、もしくは自社で所有して住宅やオフィスとして賃貸しました。誰も手をつけようとならない廃

屋の建物を、文化財に指定され改修の条件も厳しい物件を、丁寧にしかも経済的に改修し、アップビルディングしました。並行して、買取・改修資金の調達と改修した建物の管理運営をする「組合」も設立し、事業の枠組みを強化しました。

1990年代の末、スッター氏は、ある社会福祉住宅の改修事業の際、長期失業者や前科がある人たちに出会い、彼らの人生や抱えている問題に心を打たれ、社会福祉専門家と一緒に、彼らの社会復帰をサポートするための施工会社を別途設立しました。

誰も好んで受け入れようとならない人たちを、建設業の労働者として雇い、職業養成しました。そして改修した建物のいくつかは、組合で所有し、過去の履歴上、住まいを見つけるのも困難な社員や類似の状況にある社会的弱者に安く賃貸しています。

私の友人でフライブルク在住の映画監督 Peter Ohlendorf (ペーター・オーレンドルフ)は、

社会から見放された「廃屋」と「社会的離脱者」を結びつけ再生させてきた気鋭の会社ドミツィールを16年間かけて丁寧にドキュメントし、2018年に映画「誰も欲しがらない」が完成しました。脚色のない深く静かに心に訴える秀作映画です。オーレンドルフ監督は、商業主義的なメディア業界が作れない映画を独自予算で製作し、ノートパソコンとプロジェクターとDVDをもって、各地で上映会を行い、その場で観客と生で交流する活動を10年以上続けています。

このドイツの映画、現在日本語訳と字幕編集作業をしています。日本版が出来上がったら、オーレンドルフ監督と一緒に、「オンライン」で上映会と交流会を開催します。

映画「Die Keiner will 誰も欲しがらない」のトレーラー
<https://www.youtube.com/watch?v=tnx0x1mnp5M>

新商品紹介

岩手町にある有限会社ハッピーヒルファームは、新商品として弊社の生乳100%で作られたアイスクリーム（ハッピーさんのアイス）を発売いたしました。

広大な敷地で栽培された牧草、デントコーン（飼料用とうもろこし）を主体とした餌を食べ、スタッフの手によって育てられた牛たちからいただく生乳で作られたアイスは、甘みがあり豊かな風味を口いっぱいに感じることができま

先行して道の駅石神の丘レストランのデザートメニューとして提供いただいておりますが、10月末に石神の丘の産直（カップアイス1個350円前後を予定）でも販売予定です。お問い合わせは（有）ハッピーヒルファームまで。



■本紙掲載の例会や諸事業には、所属支部に関係なくどこにでも参加できます。ご連絡下さい。
 ■例会や役員会などのカレンダーと事業案内を随時更新しています。
 ■同友会ホームページを随時更新しています。
 ■本紙掲載事業への出入返信は、同封のファックス返信用紙またはedyuをご利用下さい。

安心して暮らせる地域づくり
 共に繁栄する仲間づくり
 社員の生きがいづくり

各種配電盤、制御盤、計装盤の開発、設計、製作、施工
 特殊肥料、いちご閉鎖型高設栽培システムの製造・販売

東日本機電開発株式会社
 〒020-0401 盛岡市手代森5-19-10
 TEL: 019-675-2277 FAX: 019-675-2288

節電は経費削減につながります！

オフィスの照明を見直し、経費削減を実現しませんか？
 お客様のニーズに合わせたLEDソリューションをご提案します。

- 長寿命
- 消費電力カット
- CO2削減
- 発熱が少ない

現場調査から取付工事まで、すべて平金商店へお任せ下さい！
 LEDに入れ替えた場合のコストシミュレーションも可能です。
 ぜひお気軽にご相談ください。

株式会社 **平金商店** TEL: 019-624-2121

ゆたかな幸せのために、より良い環境創りで
 真の循環型社会を目指します。

浄化槽保守点検 植物 BDFの製造・販売 エネルギー 燃焼 CO2

紫波環境株式会社
 岩手県紫波郡紫波町南日詰字小路口70-1
 TEL: 019-672-2656 FAX: 019-601-2686
<http://shiwakankyo.com/>

し尿・浄化槽汚泥収集運搬

**オリジナルラベル
 ワインを作成します**

周年記念、御中元、お歳暮、ノベルティ等

SHIWA 社名ロゴ 包装、のし無料 12以上 作成料無料
 自園自産ワイン紫波 写真OK 若手県産酒蔵ぶどう100%

お申し込み・お問い合わせ
Tel. 019-676-5301
 自園自産ワイン紫波 (株)紫波フルーツパーク
 醸造元
 〒028-3535 岩手県紫波郡紫波町遠山字松原1-11

Southern Iwate **DSG** サザン岩手ドライビングスクールグループ
 Southern Iwate Driving School Group

陸前高田ドライビングスクール 三陸技能講習センター
 RIKUZENTAKATA DRIVING SCHOOL Sanriku skill training center

平泉ドライビングスクール 遠野ドライビングスクール
 HIRAIZUMI DRIVING SCHOOL TOHNO DRIVING SCHOOL

携帯サイトはこちら
<http://www.si-dsg.com>
 /mobile

物を大切にし環境にやさしくありたい 使わない人から使いたい人へ
 総合リユースショップ **DokiDoki 2nd STREET**

(株)トータル・リユース
 代表取締役社長 **伊瀬 幸郎**
 ise yukihiro

本社 〒026-0041 岩手県釜石市上中島町2-2-33
 TEL: 0193-21-2126 FAX: 0193-21-2127
 携帯 090-8780-3296
 E-mail: trise@arion.ocn.ne.jp

人と自然にやさしい環境を創り
 地域型企業として貢献します。

水まわりのリフォーム キッチン パス・トイレ 高断熱
 住宅設備のアップサービス エコキュート ペイパー FFストーブ

浄化槽 安心安全！ 調査・施工 メンテナンス 修理

北上営業所 岩手県盛岡市

岩手日化サービス株式会社
 盛岡市黒川2 2地割5 6番地
 電話 019-696-5611

TUENO

包装設計のプロフェッショナル「東北ウエノ」は、
 「適材適包」でお客様をサポート致します。

「PACKAG ENGINEERING」

詳しくはホームページで <https://www.touhokuueno.co.jp/>

株式会社東北ウエノ
 〒021-0893 本社：一関市地主町3-35 TEL: 0191-21-4531
 テクニカルセンター：一関市地主町7-15 TEL: 0191-32-5020

輸送包装便覧.com <https://www.transport-package.com/>

DOYU
 I W A T E
 同友いわて
 2020 Vol. 144

発行/2020年11月1日発行
 岩手県中小企業家同友会
 広報委員会

〒02010878 岩手県盛岡市着町4-15 カガヤ着町ビル3F
 TEL: 019-626-4477 FAX: 019-626-1644
 Mail: info@iwate-doyu.jp